2020年3月

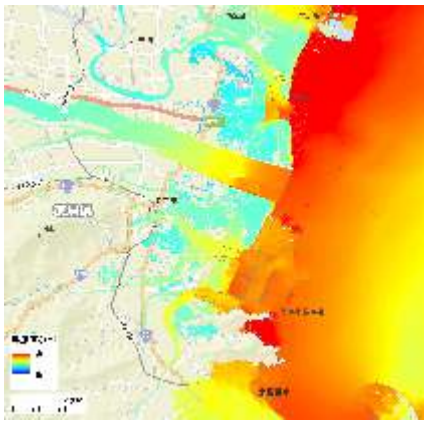
東富田地区
地震・津波避難支援マップ

製作：東富田コミュニティ協議会/富田小学校/徳島大学環境防災研究センター
徳島大学理工学部 河川・水文研究室/徳島市

■地震・津波避難支援マップ

このマップは、南海トラフ巨大地震によって発生が想定されている大津波から命を守ることを目的に、住民一人ひとりが安全で円滑な避難を日常的に考えるための情報（津波避難ビルや避難路等）を東富田コミュニティ協議会、富田小学校、徳島大学環境防災研究センター、徳島大学理工学部 河川・水文研究室、及び徳島市が協力してまとめたものです。

巨大災害に備えるためには災害の規模に関わらず「その時、その場所で、その人にできる最善の行動を考える」ことが大事です。そのため、このマップには先入観を与え、避難の初期行動の妨げになりうる想定浸水域・浸水深を記していません。様々な状況を想像して避難行動を常に考える習慣が、安全で迅速な避難行動に繋がります。想定浸水域・浸水深は『徳島市地震・津波防災マップ』（平成26年3月）をご覧下さい。



津波の遡上シミュレーション事例
資料提供：徳島大学大学院 馬場俊孝教授

避難場所や避難路は、地盤沈下、液状化等による破損・倒壊の他、火災等によっても使えなくなる可能性があります。そのために、複数の避難場所と避難経路等を考えておくことが大事です。また実際に歩いて避難場所や避難経路等の状況や避難所要時間等を確認しておくことも重要です。

■避難は徒歩で30分程度、安全な避難のための平時の備え

南海トラフ巨大地震で発生する大津波が徳島市東沖洲マリンピア東端に到達するのは地震発生から41分後、高さ約5mの最大波が到達するのは地震発生から53分後と想定されています。津波によって東富田地区全域が浸水し、地盤が低い所では浸水深が3m前後（一部では4m程度）に達する可能性があります。東富田地区は海岸から離れているものの、地震発生から大きな揺れが長時間（5分程度）続くことや、その後の安全確認と避難の準備、家具やガラス等が散乱した屋内から外に出るために10分～１５分程度かかるとすれば、時間と体力に余裕をもって避難場所まで移動するために使える時間は30分程度と考えられます。

家屋・ブロック塀・電柱等の倒壊、屋根瓦や看板等の落下、道路の陥没、埋設物の浮上等が起こるため、徒歩避難が原則です。歩行速度は被災状況によって変わりますが、障害物の回避の他、負傷者、高齢者、幼児を介助しながらの避難となるため、普段の半分程度になると考えられています。

東富田地区の重要な津波避難施設である富田小学校の周辺には、大型消防車両が進入できないような狭い道が多く、地震による倒壊物があれば、迅速な津波避難ができなくなります。加えて、この道沿いには木造住宅が密集したところも多く、地震後に火災が発生した場合には、被害が拡大し易く、さらに避難が困難になります。このため、各家庭においては、日ごろから、消火器を備えるなど消火体制を充実しておくことが大切です。

■緊急的に避難する「津波避難ビル」と救援・救護等の拠点「避難所」

徳島市指定津波避難ビルは、①鉄筋コンクリート造（RC）等の堅牢な建物、②津波の基準水位以上の床高を有する建物、③避難に有効な階へ入口から自由に入ることができる建物、の基準を全て満たす施設で、徳島市と施設管理者の間で協定書が交わされたものです。その建物には図に示すようなプレートが取りつけられています。

マップ上にある津波避難ビル名称のカッコ内の数字は、想定される津波に対して安全な高さにある階の収容可能人数を1人あたり1m^{2}で概算したものです。夜間・休日等に施錠される施設には「かぎ保管庫」が備え付けられています。かぎ保管庫は震度5強以上の揺れを感知すると扉が解錠され、入口の鍵を取り出せます。津波避難ビルは階段・廊下等の共有スペースを緊急的な避難場所として数時間程度使う施設で、食料・毛布等の備蓄は原則ありません。

徳島市指定
津波避難ビル
プレート

大津波警報・津波警報が解除され、災害により自宅での生活が困難になった場合は避難所（一定期間、避難生活を送ることが可能な場所）に避難して下さい。地区内には指定避難所の富田小学校と東富田コミュニティーセンターがあります。また、徳島県建設センターは補助避難所に指定されています。